

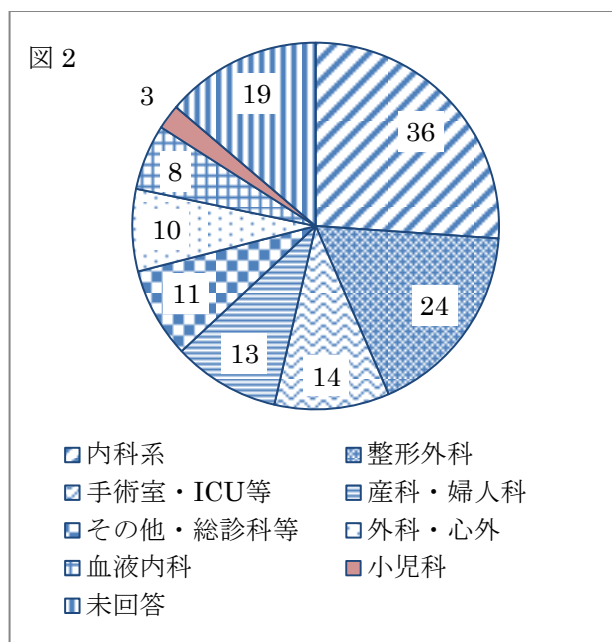
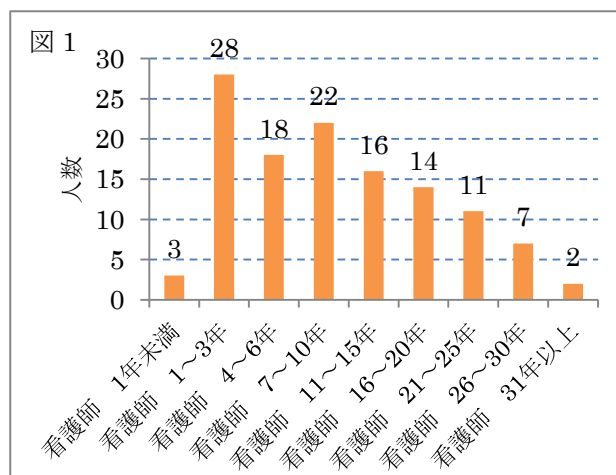
平成 27 年度「看護師のための輸血研修会」実施報告

輸血療法において看護師の果たす役割は大きく、安全な輸血を行うための教育は必須であるが、学ぶ機会は非常に限られている。そのため、宮城県合同輸血療法委員会では昨年度より、県内で勤務する看護師の輸血に関する知識・スキルの向上を目的として、「看護師のための輸血研修会」を開催している。昨年度は 150 名を超える看護師からの応募があり、看護師の輸血教育に対するニーズの高さが確認されたため、本年度も継続して同様の研修会を企画・開催した。

宮城県合同輸血療法委員会より、平成 26 年度に輸血用血液製剤を供給された県内医療機関 168 施設を対象とし「看護師のための輸血研修会」の開催案内を送付した（FAX 返信による事前登録制とした）。講義は 3 時間で、血液製剤の取り扱い、輸血副作用対応、インシデント事例など、昨年度の研修会で要望の高かった内容を中心とし、学会認定・臨床輸血看護師、アフェレーシス看護師による講演も含めた。研修会の評価と今後への要望把握を目的として、受講者アンケート調査を行った。

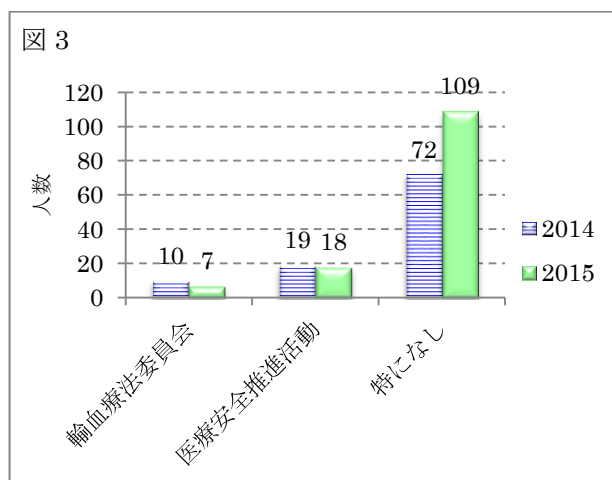
【アンケート調査結果】

(1) 参加者 147 名のうち 138 名より回答が得られ、回収率は 94%であった。参加した看護師の職務経験年数は様々で、1 年未満から 30 年以上と幅広い層からの参加があった。（図 1 参照）また、所属診療科別の参加者は図 2 のとおりであった。



(2) 本研修会への参加目的は、「今後の認定取得を視野に入れている」1 名、「スキルアップ」が 128 名という結果であった。

(3) 院内における輸血関連活動の参画については、図 3 のとおり、約 19%の看護師が関わっていた。

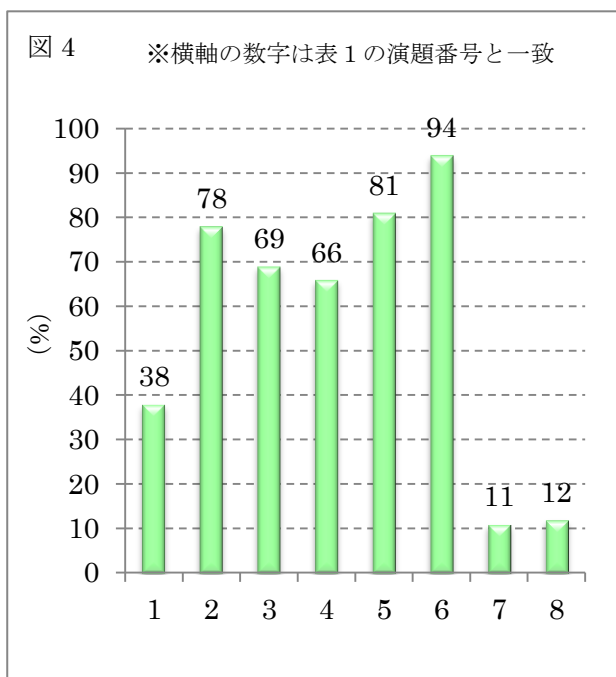


(4) 研修会は3時間で、演題8題とし、昨年より時間を1時間、演題を2題削減した。日本輸血・細胞治療輸血学会認定の医師・検査技師・看護師が中心となり講演を実施した(表1)。

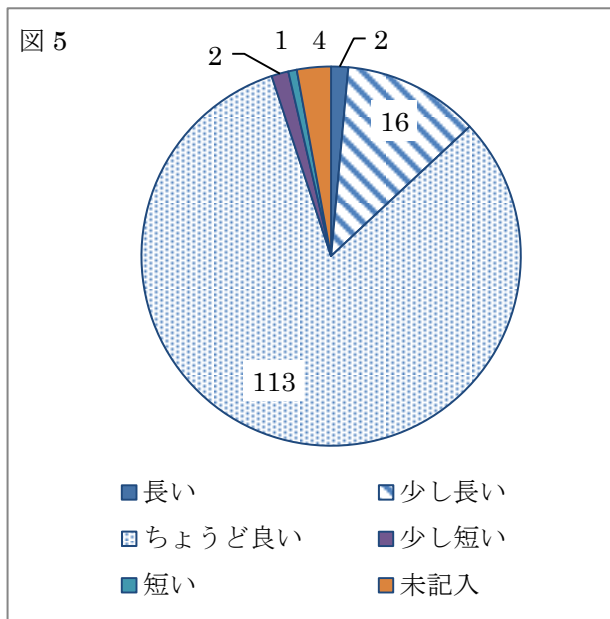
表1 研修項目一覧

演題番号	演題名
1.	輸血用血液製剤に関する update 情報
2.	輸血用血液製剤の取り扱い
3.	輸血の実際
4.	輸血検査の基礎知識
5.	輸血におけるインシデント・ヒヤリハット
6.	輸血副作用とその対応
7.	学会認定・輸血看護師について (アフレーシスナース)
8.	学会認定・臨床輸血看護師について

受講者の興味が特に高かった演題は、図4のとおり、「輸血副作用」、「インシデント・ヒヤリハット」、「血液製剤の取り扱い」等であった。また、学会認定看護師の紹介に関しても、一定数の看護師に興味を持ってもらうことができた。

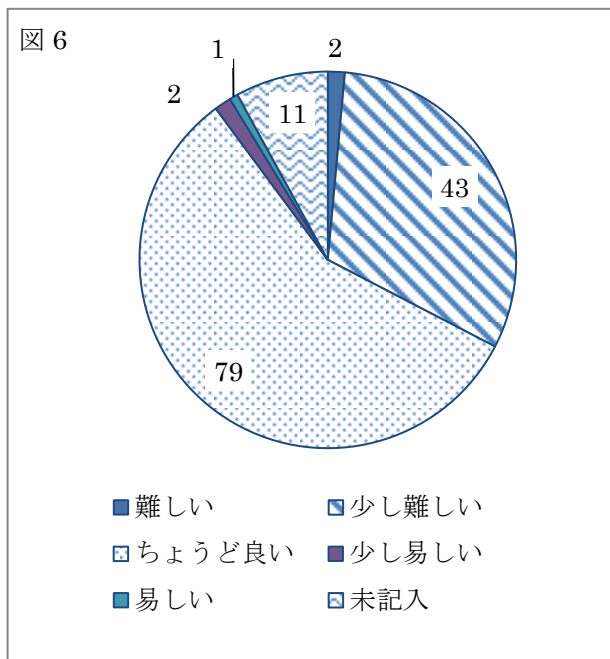


(5) 講義時間については、図5のとおり、「ちょうど良い」の回答が80%を超え、昨年の30%より大幅に向上した。



(6) 講義内容の難易度については、「ちょうど良い」の回答が57%を占め、「少し難しい」以上の回答が33%であり、昨年より改善がみられた。

(図6)



(7) 次回の研修会で取り上げてほしいテーマとして、今回の演題でも取り上げた「ヒヤリハット事例」や、「副作用の種類に応じた対応」、「外来輸血について」、「自己血について」などの要望が寄せられた。

【次年度へ向けて】

今年で2回目の開催であったが、昨年を引き続き、定員を超える申し込みがあり、多くの看護師が輸血療法に対して強い関心、向上心を抱いている事が確認された。

次年度もニーズが多かった内容を中心に看護師研修会を企画・開催すると共に、学会認定・臨床輸血看護師の意義についても啓発していく。



【プログラム】

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------|
| 1. 「輸血用血液製剤に関する update 情報」 | 13 : 30~13 : 45 (15分) |
| 2. 「輸血用血液製剤の取り扱いと輸血の実際」 | 13 : 45~14 : 15 (30分) |
| 3. 「輸血検査の基礎知識」 | 14 : 15~14 : 35 (20分) |
| 4. 「輸血におけるインシデント・ヒヤリハット」 | 14 : 35~15 : 00 (25分) |
| 5. 「輸血副作用とその対応」 | 15 : 15~15 : 45 (30分) |
| 6. 「学会認定・輸血看護師とは？」
アフェレーシスナース編 | 15 : 45~16 : 00 (15分) |
| 7. 「学会認定・輸血看護師の実際の活動」
臨床輸血看護師編 | 16 : 00~16 : 15 (15分) |
| 8. 質疑応答 (事前質問への回答含む) | 16 : 15~16 : 30 (15分) |

出張講演会

《実施目的・方法》

県内医療機関における輸血療法のさらなる質の向上、管理体制・病棟業務の現状把握を目的とした。

初回となる今年度は県内でも血液供給量が2位である仙台医療センターを対象とした。院内輸血療法委員会において承認され、平成28年1月27日に開催した。

《実施内容》

宮城県合同輸血療法委員会より、I&A 査察員の資格を有する、日本輸血・細胞治療学会認定医を含む4名（学会認定・自己血看護師1名、血液センター職員2名）で訪問した。

活動	内容
輸血管理部門の視察	I&A チェックリストによる確認
血液内科病棟の視察	病棟における輸血業務の確認
講演第一部：「血液製剤取り扱いと輸血の実際」	正しい製剤取扱いと安全な輸血の実施方法
講演第二部：「輸血の副作用とインシデント」	インシデント事例紹介 & 輸血副作用について

《輸血部門における視察および聞き取り調査》

- 輸血部門における管理体制について、確認できた。I&A 査察チェックについては P56・57 参照。
- 輸血後感染症検査の確実な実施の目的で、「輸血後検診カード」が導入され、医師が輸血後感染症検査をオーダーしていない場合は、輸血部門でチェックし、オーダーするシステムとなっているため、検査実施率が高い。

《病棟の視察および聞き取り調査》

電子カルテにて、輸血オーダーから認証・実施、観察記録、副作用報告まで行われていた。

1. 輸血準備は、1回1患者で行われ、2名での読み合わせ確認がなされていた。
2. 輸血後の観察は、5分間ベッドサイドで行い、15分後および終了時にも行われていた。
3. 輸血前投薬が指示されている患者が多く、じんましん含め、副作用はあまり経験しないとのことだった。

《出張講演会の様子》



輸血療法委員長鈴木先生により司会進行。
30名以上の参加者が集まった。



第一部 東北大学病院・島貫看護師による血液製剤取り扱いと安全な輸血の実施についての講演風景。



第二部 東北大学病院・藤原医師（日本輸血・細胞治療学会認定医）の輸血関連インシデントおよび輸血副作用に関する講演に対し、参加医師からは、アレルギー性副作用を繰り返す患者への対応について、質問があった。

《まとめ》

宮城県合同輸血療法委員会として、初めて医療機関における講演会を実施した。30名以上の参加者があったが、10月に院内開催の輸血関連勉強会が実施されていたことやインフルエンザの流行などから、予定人数よりは少なかった。

講演のみでなく、輸血部門における輸血の管理体制や、病棟での輸血準備・認証の様子について確認することができ、医療機関で独自に工夫している取り組みについても情報が得られた。出張講演会と組み合わせた院内管理体制の簡易視察は、県内医療機関の輸血の安全性向上に寄与すると考えられた。次年度も、1ないし2医療機関に対し出張講演会を開催する予定である。各医療機関における独自の有用な取り組みについては、今後当委員会の活動報告とともに、県内各医療機関へ情報を発信していきたい。